

サントリーから長岡天神へ

(第 63 回くらわん会 2001/09/04)

大山崎駅に程近い離宮八幡宮に、くらわん会の人たち 135 名が集まってきた。初秋の気が漂う絶好のハイキング日和である。今日はこれからサントリー山崎工場を見学し桜の名所の山崎聖天、長岡天満宮へと歩く。

サントリー山崎工場は日本のウイスキーの故郷として知られ、天王山の山懐、山崎峡にあの独特の雰囲気のある工場がたたずんでいる。人数が多いので 4 班に分かれて工場を見学することになる。

仕込み、発酵、蒸留、貯蔵とそれぞれの工程を見てまわるが、7 月に見学したビール工場とはまた雰囲気が違い、ここではゆったりと静かに悠久の時間の中でウイスキーが造られている感がある。巨大な貯蔵庫には今蒸留したばかりのウイスキーの樽がこれから 10 年、20 年、30 年と眠りにつく。

いよいよ今日のメインイベント、ウイスキーの試飲会である。会場はくらわん会の人たちで溢れている。何人もの案内嬢が我々をもてなしてくれる。"山崎"や"響"の水割り、オンザロック、カクテルがたちまちのうちにテーブルに広がっていく。くらわん会の面々は女も男もよく飲み、よくしゃべり、よく食べる。これこそ元気の源である。

何となく乱れ、満ち足りた気分で山崎聖天への竹藪のある坂道に行く。もう今日のイベントは終ってしまったような、もう歩くのが面倒なような思いがする。山崎聖天の桜の広場で弁当を食べ

油の神様として有名な、大山崎駅近くの離宮八幡宮に集



大山崎駅に程近い離宮八幡宮に、くらわん会の人たち百三十五名が集まってきた



サントリー山崎工場はウイスキーのふさわさと、天王山に抱かれた静かな山里で最高級のウイスキーが造られる



蒸留された真新しいウイスキーは、80リットル入りのホワイトオーク製のパンチヨンで永い静かな眠りにつく

山崎や響の水割り、オンザロック、カクテルがたちまちのうちにテーブルに広がっていく





大きなホールはくわん会の人たちの貸切、老若男女くわん会の連中はよく飲みます

る。もう長い石段を登って聖天さんにお参りしようという気はない。

右手に天王山を見ながら長岡京の住宅街を、だらだらと行列はのびて行く。やっと天満宮の森が見えてきた。菅原道真ゆかりの真っ赤な社が出迎えてくれる。境内には樹齢150年という霧島つつじの群落がある。

今日も楽しく元気で歩けたことを感謝しつつ、ここで散会となった。

石田富雄記



玄関には創業者鳥井信治郎氏の像と当時の蒸留釜が飾ら

桜で有名な山崎聖天で昼食をとる、試飲会の酔いも手伝って上まで登る人はいない



はのびてゆく
長岡京、円明寺の閑静な住宅街に行列

長岡天満宮の一角にある公園にたどり着いた、もう長岡天神駅まではすぐ近くだ

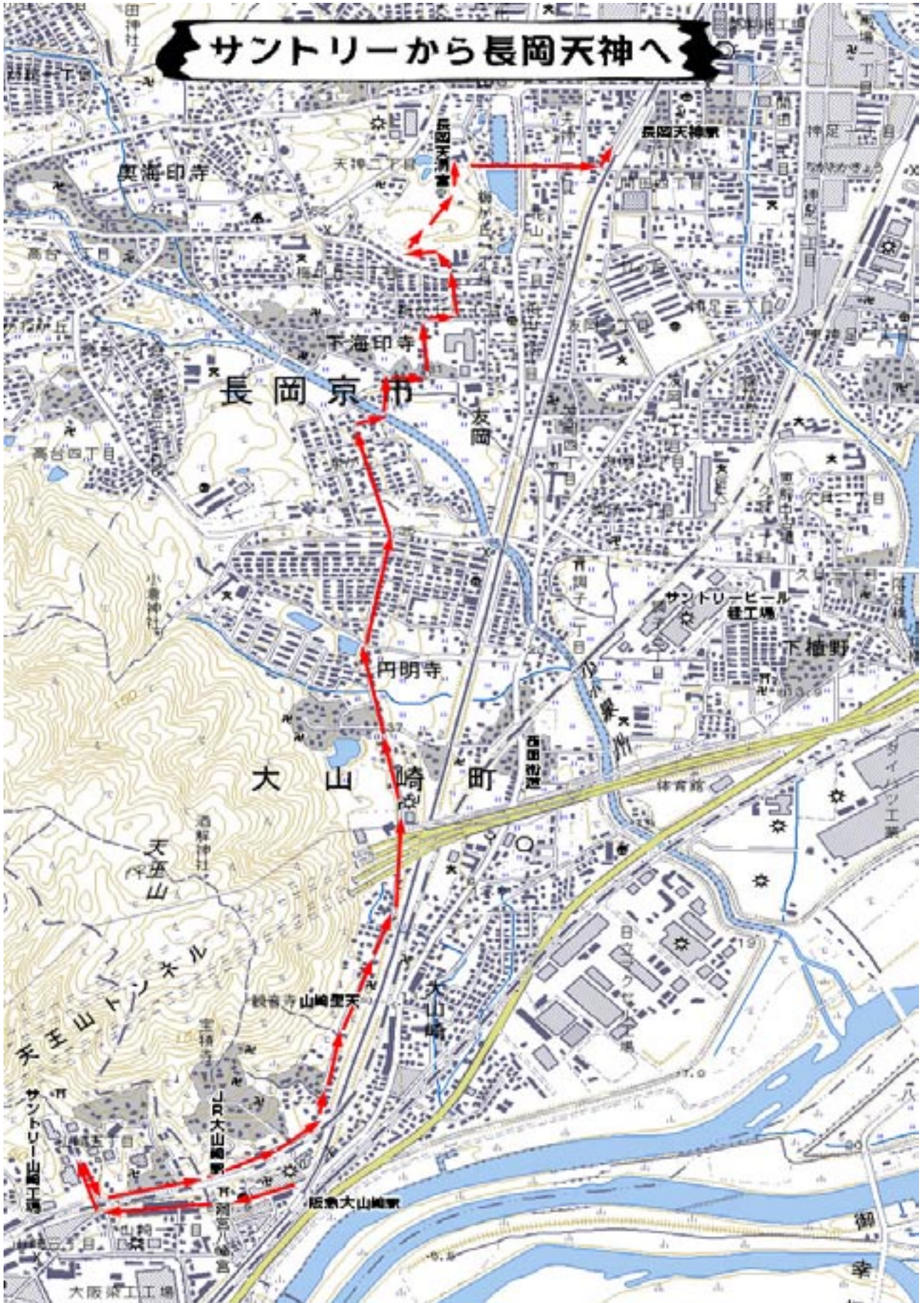


二時過ぎにやっと長岡天満宮の赤い社が出迎えてくれた 今日もしっかり元気で歩いてありがたう

菅原道真が太宰府に向かう途中に立ち寄った長岡天満宮、参道には樹齢百五十年の霧島つつじがある



サントリーから長岡天神へ



<行程>

阪急大山崎駅⇒離宮八幡宮⇒サントリー山崎工場⇒山崎聖天⇒長岡天満宮⇒阪急長岡天神駅 8km 2001年9月4日 135名参加